

航空整備士確保へ奨学金

大手2社創設、無利子で年50万円

中日本専門校など対象

ANAホールディングスと日本航空傘下のJALエンジニアリングは17日、航空整備士を確保するための奨学金制度をつくったと発表した。航空需要の高まりを見込む一方、養成学校の志願者が減っており、無利子で年最大50万円を貸与する。

対象にするのは中日本航空専門学校(関市)や日本航空大学校(北海道、石川県)、東日本航空専門学校(宮城県)といった養成学校9校に2024年度以降入学する学生で、1学年当たり最大100

入社、資格取得で返済金還付

人。応募者多数の場合は選考を実施する。12月1日に募集を始める。事務局を務める日本航空技術協会(東京)のホームページに応募用紙を掲載する。

返済期間は卒業後8年とするが、ANAやJALに入社して「1等航空整備士」などの国家資格を取得すれば本人に返す。この枠組みには2社以外も参加できるという、スカイマークなどの航空会社に加わる可能性がある。

整備士は定年退職による減少のほか、養成学校の志願者も「定数に満たない状態が続いている」(学校関係者)という。